

Constant Troyon

コンスタン・トロワイヨン(1810-1865)



草原の中の牛の群れ (1857年作)

キャンバスに油彩

50.0×71.2cm(仏 M20号)

バルビゾン派七星・動物画の第一人者

Constant Troyon

コンスタン・トロワイヨン(1810-1865)



作品名 草原の中の牛の群れ (1857 年作)

種類 板に油彩

サイズ 50.0×71.2cm(仏 M20 号)

※「Claude AUBRY」証明書付き

略 歴

1810 セーヴィルの磁器製作所の絵付け職人の家庭に生まれる。同製作所内のセーヴル陶磁器博物館長リオクルーに師事

磁器絵付師として働きながら、森での写生に励む。

1833 サロンに風景画3点を出品。風景画家としての基本は、ジュール・デュプレ、ナルシス・ディアスから学ぶ

1838 サロン三等賞

1840〜フォンテーヌブローの森で制作。その後も大作をサロンに出品

1846 サロン一等賞を獲得

1847 オランダ旅行。著名な動物画家のカイプとポッテル(17世紀オランダの2大巨匠)の作品を一年間オランダに滞在して地道な研究を続けた。帰国後、家畜を画面に取り入れ、限りなく動物に近づいて行った“動物風景画家”的になる。

動物風景画が歴史画の地位に押し上げる行為でもあり、一部から批判、異端扱いをうける。

1849 レジオンヌ・ドヌール勲章授与。バルビゾン派の中で最もはやく成功。

筆触分割の技法を考案。(ポール・ユエから教わったという説もあり。ただし、ポール・ユエはサロン出品作品にこの技法は一切使用しなかった)。

これにより、後の印象派の技法に近い光の効果をしめした。

1855 万国博覧会で一等賞を獲得し、フランスで初めて真の動物の姿を描いた画家として動物風景画の第一人者となる。

1859 19歳のモネと出会い、野外での制作を勧め筆触分割の技法など教える。

1865 パリで死去

バルビゾン派で最も革新的であった1人。動物風景画の第一人者として知られるバルビゾン派の七星の1人。ルーブル美術館、オルセー美術館多数収蔵。